

蕾 - つぼみ -



2022.6.20

◆志望理由書とは◆

6月の面談も終わり、三年生は進路に向けて本格的に動き始めているところだと思います。最近では、「志望理由書の書き方が分かりません」という生徒が多くみられるので、今回は志望理由書について説明していきます。志望理由書とは、ズバリ「志望校（志望企業）へのラブレター」です。皆さんは、ラブレターを書いたことがありますか？相手に想いが伝わるラブレターとは、どんなものでしょうか？ちょっと考えてみてください。

A：「あなたのことが、好きで好きでたまりません」

B：「私は学生時代柔道部の主将だったので、あなたをお守りすることができます。」

C：「あなたと食事をした際、あなたの優しい気遣いに心を奪われました。」

A～Cの中で、心動かされるラブレターはどれだと思いますか？Aは熱量は伝わりますが、どこが好きなのがはっきりしません。Bは頼もしい感じは伝わるのですが、少し自慢めいている感じがします。Cは具体的なエピソードが入っており、一番伝わるといった人が多いのではないのでしょうか。これを志望理由書に当てはめて考えると、次のようになります。

A：入りたい気持ちは分かるが、学校（会社）についてよく調べていない。

採点官の判断…△

B：肩書きを強調していて、なぜ入りたいのかがよくわからない。

採点官の判断…△

C：具体的なエピソードがあり、学校（会社）の良さについても理解している

採点官の判断…◎

ここまでの内容をまとめると、良い志望理由書には、①具体的なエピソードがあること、②志望校（志望企業）についてよく調べてあること、の2つの特徴があることが分かります。ただし、ここでいうエピソードとは、「〇〇大会で優勝した」や「生徒会や部長といった役職についていた」といった華々しいものである必要は全くありません。むしろ、そうした肩書きだけを強調すると、Bのラブレターと同じになってしまいます。結局のところ、人の心を動かすのは肩書きではなく、エピソードです。自分のこれまでの経験を振り返り、ぜひ等身大の志望理由書をしたためてください。

◆100%雨を降らせる部族◆

世界には、様々な部族がいます。その中でもアフリカには、雨乞いをすると100%雨を降らすことができる部族がいるそうです。いったいどうしてだと思いますか？答えは簡単で「雨が降るまで雨乞いをやめないから」です。なんだそんなことか、と思った人もいるかもしれません。けれども、進路においては、こうした諦めない姿勢こそが大切なのです。最初のうちは「こういう仕事につきたい」「憧れの学校に行きたい」という理想をもって取り組みます。しかし、「ここまででいいや」と途中で妥協してしまう人は多いのではないのでしょうか。理想を叶えた人に共通するのは、諦めない心と継続する力です。決して持って生まれた才能ではないのです。受験まで、まだまだ時間はあります。イチカシ生には、妥協ではなく本気の夢を実現してもらいたい、と切に願っています。

「負けたら終わりじゃなくて やめたら終わりなんだよね。どんな夢でも叶える魔法 それは続けること」

SEAMO『Continue』より